

ブレクスピプラゾールが著効した最遅発性統合失調症の一例

聖志会 渡辺病院 稲山靖弘 渡辺浩年

【はじめに】60歳以降発症の統合失調症は最遅発性統合失調症と呼ばれ、認知症、せん妄、薬剤誘発性の幻覚妄想状態などとの鑑別が重要である。今回我々は、ブレクスピプラゾールが著効した最遅発性統合失調症の一例を報告したい。

【症例】70歳代、女性、妄想型統合失調症（F20.2）【初診時主訴】近所の人から金を返せと言われる。

【家族歴】なし。

【既往歴】高血圧。

【生育・生活歴】20歳代で結婚、1子出産、夫の仕事の手伝いをしていた。【病前性格】朗らか。

【現病歴】X-3年、「近所の人にお金を返せと言われる。」というようになった。X年6月、家族とともに当院受診。

【初診時所見】意識は清明、精神運動的に静穏。「近所の人に100万返せと言われて困っている。」という。HDS-R：25、視空間認知障害：なし。SDS：45、TEG：W型、脳MRI：中等度海馬萎縮。脳SPECT：左頭頂葉、右後頭葉に軽度血流低下

【診断とその根拠】3年前から現在まで明らかな幻覚妄想があることから統合失調症と診断した。海馬萎縮、頭頂葉、後頭葉の血流低下があり、アルツハイマー病、レビー小体病との鑑別において、記銘力障害、視空間認知障害、幻視、錐体外路症状も認めないことから否定した。

【治療方針】本人、御家族に診断、根拠、薬物治療の必要性を説明し、同意を得た。

【治療経過】クエチアピン50mg投与するも、幻覚妄想に変化なく、日中眠気が出現した。そのためブレクスピプラゾール1mgを追加処方した。翌週、「近所の人悪口がなくなった。」という。2mgに増量。その後、「夫が近所の女性と浮気して、夫に暴力を振るわれる。」というようになった。薬物療法は変更せず、近隣の施設へ避難を目的とした入所をすすめた。翌週、「浮気相手が引越した。暴力もなくなった」と改善。その後、幻覚妄想が再燃することなく、認知機能低下もなく経過。

【考察】今回我々は、錐体外路症状、眠気など、生活機能の低下を起こさず、ブレクスピプラゾールによって幻覚妄想が消失した最遅発性統合失調症の貴重な一例を経験した。